観光客の行動から見た小京都の意識分析
ー飛騨高山を事例としてー

福井工業大学大学院　学生員　○田中　智
（株）クラスト　正会員　柏原　康之
福井工業大学　正会員　和田　章仁

1.はじめに

近年、都市空間の快適性や魅力的な町並みが重要視されており、歴史的に良好な景観を有する地方都市においても町並み景観の保全や整備が行われている。その中でも京都に類似した自然景観と町並み、古い伝統や産業が保持されている歴史都市が小京都と呼ばれている。一般的に小京都の魅力とは、周囲を山で囲まれ、市中を清流が流れており、町並みが古い民家や社寺などによってしっとりとした雰囲気を醸し出していることであると考えられる。その中で高山市は飛騨の小京都と呼ばれ、多くの観光客が訪れている。

そこで小京都の魅力について、高山市を訪れる観光客が小京都を感じる要素と、観光行動の中で実際に小京都として認識した具体的な場所を把握し、その整合性を検証する。

2.調査概要

平成13年10月に、高山市三町において、観光客を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は個人属性（性別、年齢、居住地）、訪問回数、滞在予定時間と小京都らしさ、小京都らしさを構成している要素と観光ルート及び小京都を感じた場所である。取得票数は301票であり、観光ルートまで記入されていたものは182票（60.5%）であった。

3.調査結果

（1）　被験者の訪問状況

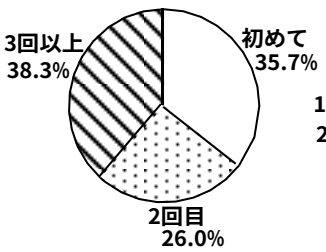


図-1訪問回数構成

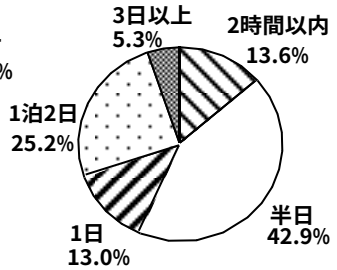


図-2滞在予定時間

訪問回数別では、「初めて」「2回目」「3回以上」の3項目で比較した。その結果「3回以上」が38.3%と最も高率であり、リピーターの割合が全体の約6割を占めていた（図-1参照）。滞在予定時間では「2時間以内」から「3日以上」までの5段階で集計した。その結果「半日」が42.9%と最も多く、続いて「1泊2日」の30.6%となっていた（図-2参照）。

（2）　小京都を感じる要素

最も小京都を感じる要素を、周囲の「山」、市中を流れる「川」、風情ある「町並み」、緑豊かな「樹木」、社寺・仏閣などの「文化財」、石畳・道祖神などの「装置・小道具」、優れた「伝統産業」、伝統ある「芸能・祭り」、地元の人々の「暮らしぶり」、および「その他」の10項目のうちより1位から3位までの順位による回答として質問した。集計では1番目選択を5ポイント、2番目選択を3ポイント、3番目選択を1ポイントとして順位に重みを持たせた。その結果「町並み」が突出しており、「芸能・祭り」「川」「文化財」が続いていた（図-3参照）。

（3）　観光ルートの類型化

観光ルートを地図に記入してもらった結果を、以下のように類型化した（図-4参照）。

1）回遊型：ある区域を一周、あるいは行き帰りの道筋に重複の無いルート。

2）往復型：始点と終点との道筋に分岐が無く行き帰りが同一となるルート。

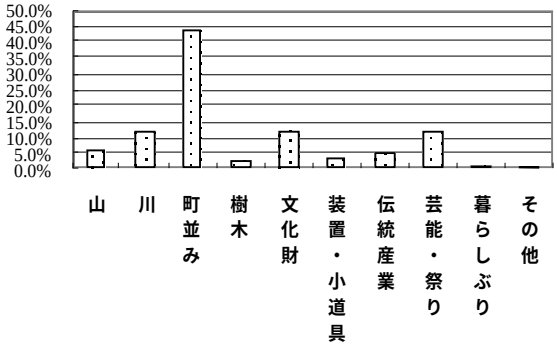


図-３　小京都を感じる要素

キーワード；高山市、観光客、小京都
連絡先（福井市学園3-6-1　福井工業大学　電話；0776-22-8111　FAX;0776-29-7891）

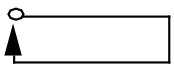
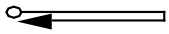
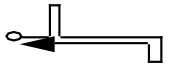
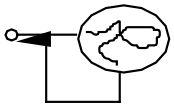
パターン	名称	サンプル数	%
	回遊型	4	2.2
	往復型	73	40.1
	寄り道型	46	25.3
	徘徊型	31	17.0
	混合型	28	15.4
		182	100.0

図-４　観光ルートの類型化

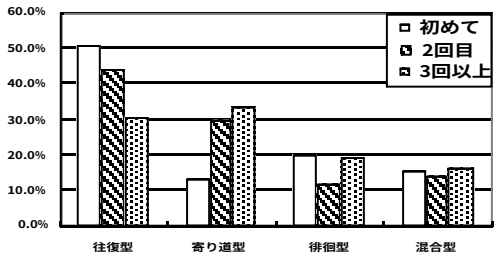


図-５　ルート別訪問回数

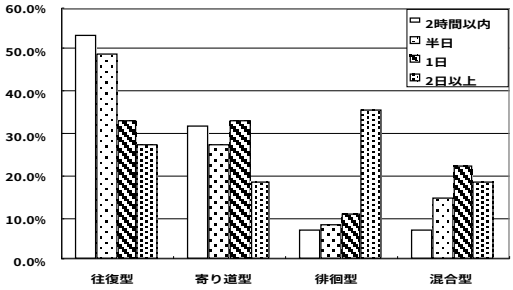


図-６　ルート別滞在予定時間

3）寄り道型：複数の目的地を重点的に辿るルート。
4）徘徊型：ある区域をくまなく散策するルート。
5）混合型：2つ以上のルートの組み合わされているルート。

ここで回遊型のサンプル数が４票であったため、これを分析から除外することにした。この結果、訪問回数との関連では往復型は「初めて」に多く、訪問回数が増えるに従って減少した。逆に寄り道型は「３回以上」に多く訪問回数が少なくなるに従って減少している（図-5参照）。また、滞在予定時間との関連でみると、往復型は「２時間以内」と「半日」の割合が多く、さらに徘徊型では、「2日以上」の占める割合が他と比較して高くなっていた（図-6参照）。

表-1　小京都を感じる場所

三町	43.9%	宮川	4.5%
高山陣屋	15.9%	かじ橋	3.0%
陣屋朝市	11.4%	高山別院	2.3%
宮川朝市	9.1%	筏橋	2.3%
中橋	8.3%	日下部民芸館	1.5%
飛騨国分寺	5.3%	表参道	0.8%
桜山八幡宮	5.3%	柳橋	0.8%

表-2　小京都を感じる要素と場所の比較

	小京都を感じる要素（%）	観光行動の中で小京都を感じる場所（%）
町並み	44.2%	43.9%
文化財	12.1%	29.5%
芸能・祭り	12.0%	20.5%
川・水辺	11.9%	16.7%
伝統産業	4.9%	4.5%

（4）　小京都を感じる具体的箇所

観光ルートの中で小京都を感じる場所を記入してもらった結果、三町が43.9%、と最も高く高山陣屋と陣屋朝市がそれに続いている（表-1参照）。これを高山陣屋や高山別院等を「文化財」、宮川朝市や陣屋朝市を「芸能・祭り」、宮川や中橋等を「川・水辺」、として集計・統合した。これらの数値と図-3で示した小京都を感じる要素を比較したところ、表-2に示すとおり双方の割合は「町並み」は一致しているものの他の要素は異なっていた。なお、「伝統産業」は数値が双方とも低かった。

4.まとめ

以上のように、高山市を訪れていた観光客の訪問状況や小京都を感じる要素、また具体的な観光行動やその中で小京都を感じた場所を調査し、観光ルートの類型化や小京都に対する意識と行動の整合性の検証を行った。その結果、以下のような知見を得ることができた。

1）観光客の訪問回数や滞在時間は、初めて訪問する人よりリピーターが多いものの、半日以下が半数を超えていた。
2）観光客が小京都を感じている要素は町並みが他と比較して高い比率であった。
3）初めて高山市を訪れた観光客は、特定の場所を単純なルートで散策している一方、訪問回数が多い人は複数の場所を散策していることがわかった。
4）意識としてとらえた小京都と観光ルートの中で小京都を感じた場所は町並みで一致している。